

平成29年度～令和元年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書
Report of Grant-in Aid for Scientific Research (B) for 2017～2019

広田遺跡の研究

人の形質・技術・移動

Studies on the Hirota Site in Tanegashima Island, Japan
— Research on the movement of people
based on biological and technological traits —



2020

研究代表者 木下尚子
KINOSHITA Naoko, Head of Project
熊本大学 人文社会科学研究部
Kumamoto University
Faculty of Humanities and Social Sciences

序 文

広田遺跡は、種子島の南部に位置する3世紀から7世紀の集団墓地である。遺跡は鹿児島県熊毛郡南種子町平山字広田に所在し、太平洋に面した南北100mの砂丘内には、今も千五百年前に生きた人々が眠っている。

1957～59年（昭和32～34年）、考古学者の国分直一氏、盛園尚孝氏、人類学者の金関丈夫氏等によって遺跡の発掘調査が行われ、150体以上の人骨と多くの貝製装身具が出土した。2005～06年（平成17～18年）には、南種子町教育委員会が遺跡の保存のための発掘調査を実施し、墓地が砂丘全体に広がっていることや、墓の時期等に新たな知見が得られた。

広田遺跡に伴った貝製品の多くは、150km南のサンゴ礁の海にすむ大小の巻貝の貝殻で作られている。広田人は奄美・沖縄地域を訪れてこれを入手し、加工して他地域に例を見ない精緻な彫刻文様をもつアクセサリー（貝符）や、「竜佩型貝製垂飾」と呼ばれる製品、さらに4万点を越える貝製の玉類等を作った。2002年、広田遺跡の出土遺物は国の重要文化財に指定され、続く2008年には遺跡が国史跡になった。現地は史跡公園として整備され、ガイダンス施設である広田遺跡ミュージアムが併設されている。

広田遺跡の内容は、以下の二つの報告書に詳しく述べられている。

- ・ 桑原久男編 2003 『種子島広田遺跡』、広田遺跡学術調査研究会・鹿児島県歴史資料センター黎明館
- ・ 石堂和博・徳田有希乃・山野ケン陽次郎編 2007 『廣田遺跡－平成16年度～平成18年度町内遺跡発掘調査事業』、南種子町教育委員会

今回の共同研究では、埋葬された人々－広田人に焦点を当て、その姿、行為や行動の復元を目指した。具体的には、広田人の形質人類学的な特徴を個体レベルで把握するとともに、骨の分析からわかる生育環境の特徴、貝製品の彫刻技術、南島への移動の実態を、新たな研究手法と基礎的な研究方法で追究し、分析や考察の過程では根拠データの提示に力をいれた。ことに第1～3次調査で出土した人骨については、出土したすべてについて個票を作成している。頁数が膨大になるため、報告書では下層人骨分のみ印刷し、上層人骨分は付属のCDに収納した。

本共同研究の実施あたり、沖縄県立埋蔵文化財センター、鹿児島県立歴史資料センター黎明館、九州大学アジア埋蔵文化財研究センター、九州大学総合研究博物館、広田遺跡ミュージアムには多大なご協力を賜った。あつく感謝申し上げる。

2020年3月5日

木下尚子（研究代表者）

例 言

1. 本書は、科学研究費基盤研究 (B) 17H02416 「3～7世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」 (平成17～19年度・令和元年度) の研究成果報告書である。

2. 本研究の経費は以下の通りである。

直接経費：6,600,000 間接経費：1,980,000

内訳 平成17年度 直接経費：3,000,000 間接経費：900,000

平成18年度 直接経費：1,700,000 間接経費：510,000

平成19・令和元年度 直接経費：1,900,000 間接経費：570,000

3. 本研究は以下のメンバーによる共同研究である。

研究代表者：木下尚子 (熊本大学 人文社会科学部 教授)

研究分担者：高椋浩史 (土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 学芸員、九州大学 アジア埋蔵文化財調査センター 学術研究者)

山野ケン陽次郎 (熊本大学 埋蔵文化財調査センター 助教)

米元史織 (九州大学 総合研究博物館 助教)

足立達朗 (九州大学 比較社会文化研究院 助教)

研究協力者：石堂和博 (広田遺跡ミュージアム 学芸員)

岩永省三 (九州大学 総合研究博物館 副館長・教授)

具志堅清大 (沖縄県立埋蔵文化財センター 主任)

小脇有希乃 (広田遺跡ミュージアム 学芸員)

篠藤マリア (ハイデルベルグ大学 准教授)

比嘉保信

ヨハネス・シュテルバ Johannes H. Sterba (ウィーン工科大学 Senior Scientist)

4. 本書の構成

第I部 報告編

共同研究の概要ならびに土器班、貝符班、人類班における調査成果の報告

第II部 考察編

第I部の成果に基づく論考

第III部 総括編

付属 (CD)

収録するデータ及び写真：広田遺跡上層人骨個票、広田遺跡人骨記録、貝符の彫刻技術に関わる写真

5. 本書の編集は木下が行った。

本文目次

序文
例言

第 I 部 報告編

第 1 章 研究の目的と方法	木下尚子	1
1. 目的		1
2. 方法と研究組織		2
第 2 章 広田遺跡の土器の分析		5
1. 中性子放射化分析による胎土分析の方法と意義	篠藤マリア、ヨハネス・シュテルバ	5
2. 広田遺跡・鳥ノ峯遺跡・具志原貝塚出土土器の中性子放射化分析	ヨハネス・シュテルバ、篠藤マリア 石堂和博、具志堅清大	12
3. 広田遺跡出土土器の新資料	石堂和博	23
4. 大隅諸島系土器の分布とその意味	石堂和博、具志堅清大	30
第 3 章 広田遺跡出土貝製品等の新資料 - 九州大学総合研究博物館所蔵資料の報告 -	山野ケン陽次郎	49
第 4 章 広田遺跡出土の人骨		65
1. 広田遺跡下層人骨個票	高椋浩史、米元史織	65
2. 広田遺跡上層人骨個票	高椋浩史、米元史織	207

第 II 部 考察編

第 1 章 土器とその移動		209
1. 大隅諸島系土器の編年と位置づけ - 共伴関係を中心に -	石堂和博	209
2. 奄美・沖縄地域における種子島の文化的影響 - 3～7世紀の土器を中心に -	具志堅清大	223
第 2 章 貝製品の彫刻技術		241
1. 広田下層式貝符の彫刻技術に関する研究	山野ケン陽次郎、比嘉保信	241
第 3 章 広田人とその移動		263
1. 広田遺跡出土人骨の再検討	米元史織、高椋浩史 足達達朗、岩永省三 中野伸彦、小山内康人	263
2. 埋葬と装身習俗から見た広田遺跡 - 下層期の3～5世紀を中心に -	木下尚子	281

第Ⅲ部 総括編

総括..... 木下尚子 329

編集後記..... 337

付属 (CD)

1. 広田遺跡上層人骨個票
2. 広田遺跡出土人骨記録 (考察編・米元ほか論文の表1)
3. 貝符の彫刻技術に関わる写真 (考察編・山野ほか論文の写真)